



兵協連だより

HYOGO CONSUMERS' CO-OPERATIVE UNION

2025 **1**



11月30日に日本協同組合連携機構（JCA）主催の「第6回協同組合の地域共生フォーラム」が開催され、コレル西宮でサテライト会場を開設しました。

「災害をめぐる協同組合の役割と連携のチカラ～暮らし続けられる地域づくりのために～」をテーマに、能登半島地震に関する報告や、阪神・淡路大震災、東日本大震災などこれまでの大規模災害と協同組合の取り組みに関する講演、参加者同士の交流などがありました。





兵庫県生活協同組合連合会
会長理事

岩山 利久

(いわやま・としひさ)

ありがとうを伝えよう

2025年、新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、会員並びに関係団体の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年と同じことを書きますが、心が痛み、心配になる問題が継続しています。一つ目は、ロシアによるウクライナ侵攻や中東問題は、いまだに和平に向けた道筋は見えません。二つ目は、人件費や物流費の上昇による物価高騰は、貧困や格差の問題を更に大きくしています。協同組合が連携し少しでも力になれるように、皆さんと一緒に努力したいと考えています。

さて、今年は阪神・淡路大震災から30年を迎えます。この間は、「震災を忘れない、風化させない」ことを軸に取り組みを進めてきましたが、南海トラフ地震への報道が増える中、節目の30年は「備える」ことを軸とした取り組みが期待されます。皆で知恵を出し合い、何を備えるのかを考える一年にしたいです。

新年を迎えると皆さんも「今年はこのことを心がけよう」と、行動目標を

立てると思います。私はありがとう（感謝の気持ち）をたくさん伝えることを

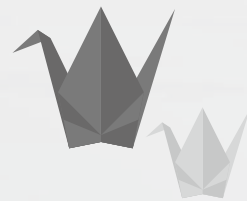
行動目標にしようと考えています。例えば、悪い情報を報告に来た職員には「早く教えてくれてありがとう」、良い情報を報告に来た職員には「いつも頑張ってくれてありがとう」などです。ありがとうを伝えるためには、職員を感謝の気持ちで見守ることが大切です。ありがとうは人を元気にする魔法の言葉とも言われているので、ありがとうの言葉が飛び交う元気な組織を目指して、私が先頭で頑張る一年にしたいと考えています。皆さんも先頭でがんばってみませんか？協同組合が「ありがとうがいっぱいの組織」になれば、組合員だけでなく地域も元気にできると思います。皆さん一緒に頑張ります！そして、今年もよろしくお願いたします。

最後になりますが、今年も会員の皆さま関係団体の皆さまと共に、兵庫県下の協同組合の発展に向け努力してまいりますので、引き続き温かいご支援とご協力をよろしくお願いたします。

CONTENTS

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------|
| 2. 想点 | 14. 協同組合のかけ橋 |
| 3. 会員生協・団体：今年の抱負 | 15. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓 |
| 13. 第4回理事会 開催報告／
保健・医療・福祉研究会《拡大版》 | 16. 初級経理学校 お知らせ／県連行事予定／編集後記 |

2025年 今年の抱負



寄り添う心を忘れない



生活協同組合コープこうべ
常務理事

多村 孝子
(たむら・たかこ)

能登半島地震の発生から、1年が経過しました。コープいしかわの組合員の方々は、「年末年始をどう過ごしたらいいか、お正月のことは考えられない」とおっしゃっておられたそうです。9月には集中豪雨の被害もあり、本当に大変な一年を過ごされたことと思います。少しでも早い復興に向けて、できることをこれからも強く思います。

環境変化が目まぐるしい中、地域社会では社会的孤立が進行しているそうです。大人も含めたひきこもりは、200万人を超えるとも言われています。公的な地域福祉が及ばない制度の狭間にいる方の増加も深刻な課題となっており、このような方々に対して、どのようなことができるかを考えていかなければいけないと感じています。先日、福祉セミナーで「社会の中に自分のことに応答してくれる他者の存在がいる居場所があることが大切」とお聞きしました。この居場所づくりがひとつのきっかけにならないか...と思います。コープこうべでは、この間、店舗への併設含め「つどい場」や「ふれあいひろば」などの場づくりを進めています。社会福祉協議会やNPOの方々や様々な方とも連携し、今後もつながる場づくりを進めたいと思います。そして、どのような時にも寄り添う心を大切にしたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

生活者と協同組合の役割



生活クラブ生活協同組合
都市生活
専務理事

山本 晋也
(やまもと・しんや)

新年あけましておめでとうございます。2024年は長らく軍事侵攻を受けるパレスチナオリーブ生産者との交流や、生協大会での安田菜津紀さんの講演など、世界で起きている暴力に衝撃を受けた年でもありました。また、衆議院選挙や兵庫県知事選挙にまつわる、何か大きな変化を感じる一年でした。

さまざまな場面でリテラシーの危うさとデリカシーの重要さをかみしめる、そんな年でした。私どもの生協では、兵庫の地域でローカルSDGsを実践する、組合員と市民が参加した活動を創り、人と人がつながる暮らしやすい地域社会をつくる、と方針を掲げています。これは、組合員同士のつながりや提携生産者、地域のさまざまな人々や団体と手を取りあいながら、それぞれが併せ持つ力の協働をもって市民が主体となる社会をつくっていくことを目指しています。改めて、現代社会において、おおせいの市民が主体となり民主的に運営する協同組合の役割は重要です。協同組合が活発に活動する兵庫から世界へ発信していけるよう、役員一同が団結して努力してまいります。対立と分断より融和を、論破ではなく議論を、白黒の追求ではなく柔和な平等を、他者を軽視しない共感と余裕を。本年もどうぞよろしくお願いたします。



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事

横川 誠也
(よこがわ・せいや)

生協もコモン

昨年の年始に発災した能登半島地震から1年が経過しました。現地では、9月にも記録的な大雨で再被災するなど甚大な被害を受けました。復興への道のりは長く、被災者への生活支援、生活インフラの復旧支援が不十分なこの国の姿勢に不安が残ります。

世界の緊張状態は続いています。核廃絶を求め核兵器のない世界を実現するために行動してきた日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、私たちの平和への行動が改めて確信できる出来事でした。

2025年は、阪神・淡路大震災から30年、終戦から80年の年になります。平和と人権を守るため、私たちは過去の歴史から学び、政治を選び行動することを重要視するべきではないでしょうか。

誰もが安心して暮らせる社会には、私たち協同組合の存在が不可欠です。コープ自然派兵庫は、国産オーガニックを推進することで、人にも環境にもやさしい社会の実現を組合員とともに目指しています。2025年度から第6次中期計画が始まります。生協もコモンという視点を持ち、組合員をはじめ地域のくらしに貢献できるように、皆さんと連携、協働していきたいです。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
理事長

岸 健二
(きし・けんじ)

誰もが有機農産物(国産オーガニック)を 食べることができる社会へ

コープ自然派では、組合員・生産者が、一緒になって、国産オーガニックをつくろうという機運が生まれています。国産オーガニックは、森・川・海の自然循環を土台とする安全な食べものづくりが基本となります。それは食料自給率を向上させ、食料主権(食の尊厳)を取り戻す取組にもつながります。

国産オーガニックは、すべてのいのちのサイクルを大事にします。自然界では、土の中で微生物は有機物を分解し、それを植物が吸収し、ヒトが食べるといういのちのサイクルが営まれています。またヒトが食べることで、体内の土(内臓)でも、いのちのサイクルが繰り返し広がられています。しかし、農薬や食品添加物によつて、いのちのサイクルを断ち切れ、自然もヒトも、健康を損なうこととなります。コープ自然派がめざすのは、「誰もが」食べられる「国産オーガニック」です。「原材料から無添加・無農薬」という設立当初の理念と想いを積み重ねてきました。これからも組合員・生産者が、一緒になって国産オーガニックをつくり、新たな生協のあり方を示すことができたいと思います。



西宮市職員生活協同組合
事務局長

山田 博貴
(やまだ・ひろたか)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

当生協は、兵庫県下唯一の市役所生協として、組合員である西宮市職員への福利厚生のため、サービスの提供に努めています。

当生協におきましても、昨今は世情の変化により、厳しい運営に努めてまいりました。

令和5年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行前、令和元年度以来の生協祭を開催することができましたが、市キャラクターの「みやたん」がデザインされたポロシャツや住宅地図の供給高が大幅減になったこと、切手印紙の販売数量減等により、全体として前年比で供給高は減となりました。また、市職員退職者の増により保険手数料収入も減となり、全体として厳しい運営を強いられました。

令和6年度につきましては、5年度に引き続き切手印紙の販売数量減や5年度にはあった書籍の大口注文が無かったこと等により、全体として前年同期比で供給高は減となっております。

本年も様々な事業に取り組めるよう、市の関係部局や互助会との連携をさらに深め、存在意義を高めていく努力を行ってまいりますので、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2025年度に向けて



神戸大学生協同組合
専務理事

坂本 安弘

(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は商品・食材や物流費の高騰により、組合員の皆様にご負担を強いこととなりました。為替相場も円安傾向が強く、政界情勢も不安な状況となっています。2025年も食堂メニュー価格を改定せざるを得ない状況となっております。もはや値上げが当たり前となっております。組合員にとって、生協を利活用する大きなメリットに価格の優位性が挙げられましたが、これが厳しくなっています。「組合員のキャンパスライフをより良くする」をいま一度見つめ直し、生協の利活用に新たな付加価値を創造しなければならいと強く考えています。

ただこのようななかでも、大学との共同研究を始め連携が進んでいる部分もあります。また、昨年12月より手作りパンの製造販売も開始し大きな手応えを得ることができました。4月の新入生を迎える時期までにはブラッシュアップを進め、組合員の期待に応えたいと考えています。

神戸大学生協では、2025年度に新たなビジョンを、生協職員一人ひとりが「大学コミュニティの一員を自負できる組織へ」とし、4つのミッションを策定しました。このビジョンとミッションの実現に向けて尽力致します。

本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2025年度へ向けて



関西学院大学生協同組合/
大手前大学生協同組合
専務理事

斉藤 和久

(さいとう・かずひさ)

新年あけましておめでとうございます。旧年中はひとかたならぬご高配にあずかりまして誠にありがとうございました。ありがとうございました。

関学生協では中期計画の一つに「食事業の再構築」というテーマを掲げています。昨年より、設備投資や店舗改装、人員確保など準備を進め、いよいよ2025年度から事業回復に向け本格的に活動をスタートさせることとなります。食堂では混雑緩和はもちろんのこと、メニューの選びやすさ・取りやすさ、組み合わせ提案を課題とし、ショップでは手作り弁当・焼きたてパンの拡販を課題としています。大学側からは複数の店舗外の出張販売場所を提供いただけるなど、大学・生協との協力関係も築けています。

友人と学内での食事を楽しんでいただくことで、キャンパスでの滞在時間が増え、大学キャンパスがより活性化すれば大学生協としても嬉しい限りです。今年度も多くの学生組合員にキャンパスライフを楽しんでいただき、大学生協の存在意義を感じていただけるよう日々の業務に努めて参ります。

本年も皆様からご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

阪神・淡路大震災から30年



神戸市外国語大学
消費生活協同組合/
兵庫県立大学生協同組合
専務理事

中尾 太樹

(なかお・たいき)

新年あけましておめでとうございます。

1月17日で、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えます。昨年は、能登半島地震の発生もあり、この節目の年は、ますます重みを増すものとなりました。

30年前の震災発生直後、生協の諸先輩方は、全国の生協ネットワークを活かして災害支援に取り組み、被災地の生協は、ボランティアセンターを設けて支援に取り組みました。大学生協も被災地で活動を続け、1995年はその後、「ボランティア元年」と呼ばれ、多くの市民が災害ボランティアとして参加する流れを生み出しました。

30年後の我々は、どれだけ先人達の思いを受け継ぎ日々の活動につなげられているのでしょうか。私自身、震災当時は学生で支援を受ける立場で、この地域に生協があつて本当によかったとつくづく感じています。その後、たまたまご縁があり、生協の一員としてお仕事をさせて頂いたことになった今、自問自答の日々を過ごしています。

困ったときに頼りになる生協に、あつてよかったと思つていただける生協に。

今年1年間で、あらためて見つめ直し、日々の運営につなげて行きたいと考えております。目先の運営に足を取られる日々が続くなかではありますが、組合員の力を借りながら、この難題に取り組んでいきたいと思ひます。

引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



甲南大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

2025年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。

2024年は、元日から能登地方で大きな地震があり、被災をされた方々には心よりお見舞い申し上げます。

昨年引き続き、2024年度も神戸市中央卸売市場東部市場と連携し、産地と学生をつなぐ活動として、毎月各地の名産物を使ったメニューの出食、産地とオンラインで繋いだ講演会を行い、料理を活動の主としていたクラブが名産物でメニューを提案するなどの学生応援を行いました。この活動の一つとして1月17日には愛媛県・JAえひめの皆様のご協力ですずきの炊き出しを配り、能登地震への募金活動および、29年前の阪神淡路大震災を感じてもらおう企画を行い、多くの組合員参加がありました。被災地から離れた場所でも「今、自分ができることがあるのなら協力したい」という声を聴くことができました。新入生を迎える活動では、年々先輩学生を中心として、盛り上がっています。自分たちが入学前に感じた不安を希望に、ドキドキをワクワクに変えられるようにと前向きに準備をしている姿に日々、励まされています。

少子化が進み、大学自体が大きく変革を遂げようとしている中で、生協も「今」の組合員の声をしっかりと捉え、共に未来を作っていくために、大学と共に前へ前へと歩みを進めていく所存でございます。本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



神戸薬科大学生活協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

2025年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。

2024年度は、学生組合員の日々の楽しみを作るため、新しいメニューやスイーツを導入して店舗でも様々な企画を行い、好評を博しています。また、大学の新しい建物や改装された図書館のオープンで学生組合員の動き方が大きく変わることとなりました。生協としても薬科大の学生組合員の生活に特化した形での新しい店舗の運営を進めてまいりました。授業以外で学内に残って勉強をする学生の数が昨年から増えてきており、新入生数の増加からも店舗の利用が大きく伸長した年でした。事業としてはまだまだ厳しい状況が続いていますが、学生・教職員と生協職員が顔の見える関係となっており、個別にご意見を聞くことができるのが、薬大生協のいいところでもあります。

組合員一人一人の声を捉え、必要なことへの対応や期待に応えることで「自分の大学に生協があつて良かった」と感じていただけるよう努力を続ける所存でございます。

本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

また、最後となりましたが2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の被災者の方々に謹んで心よりお見舞い申し上げます。



神戸親和大学
生活協同組合
専務理事

坂本 安弘
(さかもと・やすひろ)

2025年度に向けて

新年明けましておめでとうございます。

いま神戸親和大学は大きく変わろうとしています。これは2023年度からの男女共学をスタートに、クォーター制度への移行、そして大学が地域コミュニティにおいて中心的な役割（地域連携）を担うことを模索しています。大学生が地域コミュニティの中で積極的に活躍すること（大学生の学び）や、キャンパス内に地域の住民を招くことで大学をより活性化（大学の新たな発展やスタイル）等です。

このような流れの中、これまでとは異なる役割を生協に求める声が大きくなっており、大学の期待に対して何ができるのかが大きな課題となりつつあります。

専務理事や店長だけでは叶わないことも、職員が一丸となって取り組めばできることがまだまだあるのではと、いやきつとあると考えています。

とは言え、事業規模が非常に小さく当生協だけでは、どうしても厳しい局面に遭遇することがあるかと思えます。そのような場合、貴連合会の会員生協の皆様のお借りし乗り越えたいと考えています。

本年も引き続き、皆様からご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ致します。

2025年を迎えて



園田学園女子大学
生活協同組合
専務理事

大西 範和

(おおにし・のりかず)

新年あけましておめでとうございます。
昨年は一昨年と比べ、目に見えて学生食堂の利用が増えました。コロナ禍以降、大きく落ち込んでいた食堂事業でしたが、やっと6割程度の利用まで回復してきました。

お昼休みに席が埋まった食堂で楽しそうに食事をしていたり、店舗スタッフに近況報告などコミュニケーションをとってくれる学生組合員を見ると、コロナ前の姿に戻りつつあるのかなと感じるときもあります。しかし、学内の滞在時間が短いままでの傾向は続いていますし、サークル活動なども以前ほど活発には行われていない様子です。生協の立場として、少しでも役に立てればと、オープンキャンパスや大学祭などに積極的に参加させていただきました。

本年は4月より大学が共学化となります。大学名の変更にもない生協名も「園田学園大学生生活協同組合」に名称変更をいたします。そして男子学生の組合員が増えることにより対応が必要なことなど、大学と相談しながら準備を進めているところですので、変化をしっかりとらえ、よりよいサービスが提供できるように取り組んで参ります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

2025年を迎えて



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事

金保 吉郎

(かなほ・よしろう)

新年あけましておめでとうございます。
2024年は長く続いた新型コロナウイルスの影響もほとんどなく、キャンパスは学生で活気あふれる状態に戻りました。楽しそうにしている学生を見ると、こちらも元気になり、スタッフの励みにもなりました。しかし客数はコロナ前の80%程度しか戻らず経営は依然厳しい状態が続いております。

そのような厳しい中ではございますが、新たな事業といたしまして2024年4月に大学にカフェをオープンいたしました。大学から依頼を受けて、運営を生協が行っています。新しい店舗ということで準備等が大変でしたが、学生組合員の『学内にカフェがほしい』という、たくさんの方の声を受けて作られたカフェを無事オープンすることができてほっとしております。

カフェの学生プロジェクトも立ち上げ、生協の学生理事が中心となってカフェの企画・広報などを頑張ってくれています。カフェの客数についてはオープン時から比べると少なくなっていますが、学生や大学と話し合いながら、組合員がコミュニケーションの輪を広げられるような場所を目指していきたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いたします。

2025年を迎えて



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事

小森田 敏

(こもりた・さとし)

新年あけましておめでとうございます。
2024年は学内の行事もより活発になり、学生笑顔溢れる年となりました。

生協の事業としましては、昨今の円安の影響や原材料の高騰を受け、値上げが止まりません。限られたお金でやりくりしている学生に対してとても心苦しく思っております。

そのような状況の中で少しでも組合員に楽しんでいただけるよう生協同好会（学生委員会）が企画を立案し、購買店舗への客数増を狙ったスタンプカード企画や試験応援のグミ割引企画など様々な取り組みを行い、購買スタッフと一緒に店舗の活性化に協力してきています。

食堂はフェアメニューを積極的に取り入れ、毎日利用してくださる組合員を飽きさせないよう努めて参りました。

厳しい状況ではございますが、本校の組合員に寄り添っていきけるよう、勉強面でも生活面でもサポートを続けていければと考えております。そのために職員と力を合わせて尽力してまいりたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



生活協同組合連合会
大学生協事業連合
常務理事(関西北陸地区統括)

國見 伸行
(くにみ・のぶゆき)

事業を再生・拡大する1年に

新年あけましておめでとうございます。

兵庫県生活協同組合連合会の会員生協のみならずにおかれましては、日頃より弊会の諸活動にご協力頂きまして誠にありがとうございます。また大学生協支援活動においては多大なご尽力を頂いておりますことにあらためて御礼申し上げます。

キャンパスには、COVID-19の影響がすっかりなくなつたかのように賑わいを取り戻した1年間となりました。一方で大学生協の店舗食堂は、8割強の回復に留まっています。このことは、効果性の高いオンライン講義が一定普及したこと、コロナの流行下において世代分断が起きた結果、部活・サークルが縮小傾向にあることなどが原因と考えられます。最大の原因は「大学生生活の中に生協の利用が位置付いていない」ことにあると思われま。

大学生協はコロナにより大きく経営に傷が付きました。この数年間は、損益の数値を改善するために経費削減、事業縮小により組織の存続を目指してきました。一方で、このままでは縮小再生産の負のスパイラルに陥ってしまう危機となっております。今こそ求められることは、大学や組合員の本来に必要な商品や食事、サービスの提供を通じて事業を拡大していく方向に舵を切ることです。

今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



神戸医療生活協同組合
理事長

道上 哲也
(みちがみ・てつや)

2025年のはじめにあたり

新年おめでとうございます。

昨年、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。広島と長崎に原爆が投下されて80年になります。核兵器のない社会を目指すことが世界の主流であることが、この度の受賞でありかになりました。わたしたちの平和のとりくみを更にすすめていきたいと考えています。もうひとつ、昨年の1月に発生した能登半島地震、9月の豪雨災害への支援活動は、1995年の阪神・淡路大震災を経験し、全国から支援をいただいた、わたしたちの役割として、今後も被災地に寄り添いながら継続します。

2025年は、地域包括ケアシステムが導入されます。わたしたちの事業と運動が、地域に根を張った組織として健康で命を大切に社会の基盤づくりをすすめていくことがますます重要となります。また、生活協同組合として、平和・くらし・環境・気候変動など、さまざまな分野でのとりくみをすすめていくことが求められています。神戸医療生協でも、「人権」をキーワードに組合員と職員の協働のとりくみをすすめていく年にしたいと考えています。最後になりますが、本年が皆様にとって充実した、よい年であることを祈念し、新年のご挨拶とします。今年もよろしく申し上げます。



尼崎医療生活協同組合
専務理事

瀬井 宏幸
(せい・ひろゆき)

医療・介護は社会的共通資本

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

2024年度は、2年に1回の診療報酬改定と3年に1回の介護報酬の改定が同時に行われました。診療報酬は薬価も含めると6回連続のマイナス改定でした。介護保険も物価上昇を補えない水準であり、訪問介護に関しては引き下げとなりました。

また、改定では、これまで患者さん7人に対し看護師1人であった病棟が、患者さん10人に対し看護師1人で対応をしなければならぬという、現場からするとんでもない改定も含まれていました。給料もあまり上がらない中、医療・介護の現場からは悲鳴の声が上がっています。患者さんや利用者さんも大変です。国保や介護保険の保険料が引き上げられ、自己負担も増える中、物価上昇もあり、医療や介護の利用を控える人、利用を我慢する人も増えていきます。患者さんや利用者さんからも悲鳴の声が上がっています。

このままでは、医療や介護の崩壊が一気に進んでいくことが危惧されます。コロナ禍でも明らかとなりましたが、医療・介護は社会的共通資本と言えます。しっかりと医療・介護の充実を訴えていく年としたいと思います。

2025年問題の年



阪神医療生活協同組合
専務理事

蓮見 克也
(はすみ・かつや)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り致します。

遂に2025年になりました。

「2025年問題」と言われた、①労働力人口の減少による人材不足②医療・介護費や社会保障費の増大③認知症などの介護に携わる人材の確保の難しさ④医療体制の維持の難しさ⑤年金制度の維持の難しさ⑥労働力や消費市場の縮小による経済成長の鈍化と、上げられた問題が何一つ解決しないまま迎えてしまった事に愕然とさせられます。

医療・介護の現場も人材不足や社会保障費の増大にともなう保険の改悪の中で、事業経営は益々難しくなっています。

その中で、組合員にとって必要な事業だが、黒字に転化できずに経営判断を迫られるものや、ぎりぎりで経営している中で大きな設備投資費を支払ってまで経営できるのか判断が分かれるもの存在します。

本年は改めて何が大切で譲れないものなのかを生協的アプローチで解決しながら、追い詰められても立ち位置を忘れてないようにしていく年にしたいと思っております。

法人が成長できる年に



宝塚医療生活協同組合
理事長

茅野 涼一
(かやの・りょういち)

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。

私は、昨年8年ぶりに宝塚医療生協に戻りました。感覚に鈍りがありました。現状の把握から始めました。

職場訪問と地域支部運営委員会・班会活動に参加し、職員・組合員と会話する中で、前の記憶が少しずつ戻り、その中で法人全体の前進面と課題を考えました。

今年、私が感じていること、こうしてはどうか、と思うことを率直に提起して、法人の課題を克服しながら、さらに前進するアイデアを、組合員と職員から出していただき一緒に行動して、より良い医療介護活動と、組合員活動を実施できるようにしなければと決意しているところです。

昨年の兵庫県生活協同組合連合会主催の新春トップセミナーでコープみやぎの法人運営について聞かせていただき、すごく感銘を受けました。少しでも真似ができないかと思っております。

今年も、皆様方にとって良いお年であることを祈念して新年のあいさつと致します。

事業再編と

「くらしの安心ネットワーク」の推進



姫路医療生活協同組合
専務理事

黒岩 勝博
(くろいわ・かつひろ)

新年明けましておめでとうございます。

姫路医療生協創立50周年を組合員と役員、地域の諸団体と祝うとともに、昨年は、計画的に事業の統廃合含む再編をすすめた1年でした。4月に福祉用具レンタルなどを福祉用具レンタル共立に統合、6月末にショートステイつどいの廃止、8月に共立病院通所リハビリテーションの新築移転、11月に福祉介護センター太子を福祉介護センターあほしへ統合等、経営構造の転換をはかりました。事業所の赤字経営や人員不足を背景にした事業の閉鎖は残念ですが、ご利用者には統合先からのサービス提供や他のサービスへの紹介等、ご迷惑をおかけしないよう法人あげて丁寧に対応できました。今後も組合員、利用者へのニーズにお応えできる「足腰の強い」事業経営を具体化、推進します。

今年、地域組合員と職員組合員が、ともに学び、協同をひろげ、「姫路医療生協のくらしの安心ネットワーク」を大きくひろげる1年にしたいと思っております。そのためには、より多くの組合員に「元気な時から最後まで」、姫路医療生協の健康づくりや助け合い活動に参加いただくことが必要不可欠です。介護サービスをご利用いただくことが必要不可欠です。生協10の基本ケアを組合員と職員の「合言葉」にして、くらしのネットワークをひろげます。本年もよろしくお祈りいたします。



ろっこう医療生活協同組合
理事長

小西 達也
(こにし・たつや)

新年のごあいさつ

皆様には、さわやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、能登地震はじめ日本各地で起きた自然災害により、多くの人が被災され、被災地支援のあり方について考えさせられる1年でした。本年は阪神・淡路大震災30年ですが、当生協の職員で震災経験者は私はじめ数人となっています。

震災当日の昼過ぎ、灘診療所に姫路医療生協から1台のトラックが到着しました。満載のポリタンクの水を届けていただいたこと、その英断と実行力は忘れられません。震災の体験と教訓をまとめ次世代に伝える作業を本格化させます。

事業面でも昨年は激動の1年でした。諸般の事情により本部ビルの建て替えが困難となり、また「小規模多機能とがわ」を移転させざるを得なくなりましたが、「ケアベース水道筋」として新築統合させることができ、一億円増資運動も期限内に達成することができました。

診療報酬改定は内科系診療所をはじめ、大きな痛みとなり、福祉医療の継続に大きな不安が広がっています。厳しい状況ですが、役員が経営をしつかりと学習・意識して「地域に密着した良質な医療・介護」を高いレベルで提供し続けなければなりません。

本年は灘診療所のリニューアルを予定しております。さらなるご指導・鞭撻をお願い申し上げます。



たじま医療生活協同組合
専務理事

松本 幹雄
(まつもと・みきお)

創立30周年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

たじま医療生協は、今年創立30周年を迎えます。但馬に兵庫民医連の診療所をつくらうと、1995年6月に当生協は結成されました。同年1月17日に阪神・淡路大震災が発生。その未曾有の惨状から、一時は但馬での設立計画は断念せざるを得ないのではとの声も上がりました。しかし、兵庫民医連が全国から被災地支援を受ける中、空白地但馬での診療所建設は放棄できないと英断が下されました。

1996年6月には、ろっぽう診療所が開設。2004年、台風23号により円山川が決壊し、診療所は1、2メートルの浸水で医療機器、カルテなどが水没し診療機能が麻痺しました。しかし、県内外から多くの方に支援に来ていただき復興を果たすことができました。2005年、介護事業所えがお（居宅介護、訪問看護、訪問介護、訪問入浴）が開所し、現在の組織体制となりました。

30年間を振り返り、先人の献身的な努力と熱意、諸団体の皆様の絶大な支援によって今日の姿があることを改めて認識し、感謝の意を表します。経営難、医師不足など課題は山積ではありますが、明るい未来に向け新たな1歩を踏み出す年にしていきたいと思っております。



ひまわり医療生活協同組合
理事長

三橋 徹
(みつはし・とおる)

ツボ押し会、経絡治療の発展

新年を迎え、組合員さん、地域住民の幸せを創造する皆さまのご活躍にあらためて敬意を表します。

診療所は内科医師の人気もあり、昨年10月から単月で経営が黒字化しました。

昨年の新年の抱負で紹介した健康クラブ「ツボ押し会」ですが、その後の発展がありました。行っているのは、主に手足のツボを押して、体のさまざまな流れ（ライフフロー）のつまりを除く治療、健康法ですが、昨年は、体幹の中央のラインを用いて、指や物理療法での低出力レーザーを当てる方法を学びました。

それは、柯尚志^{こうしょうし}先生の開発した遠隔療法の方法ですが、簡単に自分の指で押すこともできますし、レーザー治療器を用いる治療でも、数分でこれまで続いていた慢性の痛みが軽快しました。この方法のため、診療所の物理療法を受ける患者さんが急増し、大阪から物理療法を受けるために通院する方も出てきています。

ツボ押し会で共有している夢は、この方法が世界に広まり、ガザのような被災地や被災地でも用いられ役立つことです。興味のある方は、ひまわり医療生協・田島診療所にご連絡下さい。本年もよろしく願いいたします。

新年を迎えて



神戸市民生活協同組合
専務理事

岡田 健二
(おかだ・けんじ)

新年あけましておめでとうございます。
昨年、1月1日に石川県を中心に甚大な被害をもたらした能登半島地震が発生しました。被災された方々にあらためてお見舞いを申し上げます。一年が経過した現在においても未だに復旧途上であり、中々復興の道筋も見えて来ない状況です。今後とも我々が出来る支援を続けていくことが大切だと思います。

こうした中でも、多くの人々に元氣と勇気を届ける話題がありました。大谷翔平選手の活躍です。メジャーリーグ史上初となる「50本塁打・50盗塁」を達成した超人的な活躍はもろろんのこと、日本人が大切にしてきた謙虚な立ち振る舞いや純粋に野球を楽しむ姿に誰もが誇らしく思ったのではないのでしょうか。

ある試合で大谷選手がグラウンドに落ちていたゴミを拾いポケットに入れる姿が話題になりました。この行動は、「ゴミは人が落とした運。ゴミを拾うことは運を拾うこと。ゴミを拾うことで自分自身にツキを呼ぶ」という大谷選手の恩師の教えからくるものです。大谷選手の成功は、その教えのもと、どんな困難な状況であっても日々の努力を積み重ね、挑戦を続けてきた結果とされています。

現在、コロナ禍を契機に価値観や生活様式の変化、デジタル技術の急速な進展、SNS社会の到来など、まさに時代の転換期にあるといえます。これからも当組合は、いかなる事業環境下にあっても「支えあい・助けあいの市民共済」として、日々の安全・安心の暮らしを支える共済商品をお届けできるよう、職員一同、日々の努力を怠らず、常に挑戦する姿勢をもって、取り組んでまいります。

年頭にあたり、皆さまの益々のご隆昌とご健勝を心からお祈り申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



新潟市民共済
生活協同組合
理事長

赤川 孝平
(あかがわ・こうへい)

新年、明けましておめでとうございます。
昨年を振り返りますと、元日に能登半島地震が発生し、早や1年が過ぎてしまいました。

現地では、「復興」への道のりは程遠く、未だ「復旧」道半ばのようです。あの惨状を目にした時に、私は阪神・淡路大震災の記憶が蘇ってきました。私たちが阪神・淡路大震災から学んだ教訓が「自助」と「共助」の大切さでした。

今回の能登半島地震を受けて、改めて協同組合の理念である「相互扶助」「助け合い」という共済の大切さを再認識する機会になりました。そして8月に入ると猛暑とコメ不足のニュースが連日報道されました。

コメ不足と言えば、1993年(平成5年)の冷夏によるコメ不足を思い出します。あの年の夏、私は大山(鳥取県)で、あまりの寒さから昼食に温かい鍋焼きうどんを注文し、震えながら食べた記憶が蘇りました。政府が備蓄米を放出してもなお200万トン不足し、タイ米やカリフォルニア米が259万トンも緊急輸入された年でした。あの時は、どれだけ日本米を恋しく思ったことでしょうか。

さて、新潟市民共済生活協同組合もおかげさまで、今年70周年の節目の年です。
組合員の減少等、課題は山積しておりますが、職員と共に組合員の皆様の「安心の一助」となり、必要とされる共済の発展に全力で取り組んで参りますので、今年も引き続きのご支援とご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

フレッツシユな視点で…



姫路市民共済生活協同組合
理事長

柏原 浩明
(かしはら・ひろあき)

新年あけましておめでとうございます。
今年で阪神・淡路大震災が発生して30年が経ちますが、その後も全国で地震が多発しており、東海・東南海・南海地震の発生が危惧されています。また、昨年4月には、播磨南西部と南東部において、拳ほどの大きさの電が住宅や車を直撃、今までにない災害に遭遇し、改めて地球温暖化の影響が身近なところに迫ってきていると実感しています。

ロシアの核兵器の脅威など世界情勢が不安定の中、大地震、異常気象による被害、そして物価高騰、円安の影響も受け、水光熱費、人件費の上昇など我々を取り巻く環境は年々厳しくなっており、頭を悩ます日々が続いています。

しかしながら、大谷翔平選手の2年連続ホームラン王、「50-50」、目標に向かって頑張っている姿にたいへん元氣づけられ活力と氣力を得たように思います。

昨年、「姫路市民共済」に2人のフレッツシユな若手職員が加わったこともあり、新たな視点で今まで当たり前だと思っていたことを一から見直し、脱皮することにより新しい挑戦や変化に努力を重ね、組合員に寄り添った、組合員のための事業を安定して推進してまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様とご家族が健康であること、そして実り多き一年になりますことを祈念しています。
本年もよろしく申し上げます。

西宮市民共済生活協同組合
常務理事兼事務局長坂本 健治
(さかもと・けんじ)

蛇にあやかつて

新年あけましておめでとうございます。

昨年は「コロナ」という言葉を耳にすることがな
くなったように感じられる年となり、人々の生活も
平穏を取り戻しましたが、経済の面から振り返りま
すと、生活に直結する様々な物価が上昇したこと
により、厳しい1年となりました。

そのなかで、パリオリンピックでの日本人選手に
大いに励まされ、大リーグにおける日本人選手の活
躍にも目を見張るものがありました。

今年の干支は乙巳（きのとみ）で「努力を重ね、
物事を安定させていく」という意味を持つ年とされ
ています。成長は当然大切ですが、安定ということ
も私たちの生活では非常に大切なことだと思いま
す。

「巳」は十二支の6番目で蛇を表しています。蛇
というとあまり良いイメージはありませんが、昔か
ら五穀豊穡や金運が良くなる神様として祀られるこ
ともあり、神聖な生き物とされることもあります。
また、たくましい生命力で脱皮するたびに表面の傷
が治ることから再生のシンボルともされています。

今年はいくまでかの不具合を辛抱強く修正し、安定
した生活が送れるよう、職員一同、組合員の皆さん
とともに平穏に暮らせる1年としたいと願っていま
す。

兵庫労働共済生活協同組合
専務理事矢田 哲也
(やだ・てつや)

2025年国際協同組合年

あるべきようは

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、元日に能登半島地震が発生し、石川県・
富山県・新潟県を中心に甚大な被害をもたらしまし
た。その後4月の当地兵庫東南西部における降電被
害、7月下旬から続いた山形県・秋田県を中心とし
る豪雨災害、8月の宮崎県日向灘を震源とする地震、
そして台風10号、9月の低気圧と前線による大雨に
よる能登地方の被害等、まさに立て続けに枚挙に暇
がないほど様々な災害に見舞われました。

私共は、災害の猛威に直面した組合員を支えるべ
く速やかな共済金支払いにつとめることにも、近年、
自然災害の多発化・大規模化がみられることから「防
災」・「減災」に関する啓発活動や災害時の無保障者
をなくす運動についても取り組みを強化しています。

こうしたなか、本年1月17日に阪神・淡路大震災
から30年という節目を迎えます。こくみん共済
coop兵庫推進本部（兵庫労働共済生活協同組
合）では、過去の教訓が活かせなかったということ
がないように、「万一」の災害の際、不幸な組合員を
出さないことを合言葉に、住宅再建、生活再建に困
る組合員が発生しないよう各協力団体、組合員のみ
なさまとともに全力で取り組んでまいります。

2025年は「国際協同組合年」です。「協同組
合はよりよい世界を築きます」のテーマに、協団体
体・組合員とともに「あるべき姿」を今一度見つめ
直し、「みんなでたすけあい豊かで安心できる社会
づくり」の理念実現にむけて歩みを進めてまいりま
す。

本年も、変わらぬご指導・ご鞭撻をよろしくお願
い申し上げます。

近畿労働金庫兵庫地区本部
本部長清宮 豊
(せいみや・ゆたか)新たな生活応援運動の拡大と金融DXへの挑戦にて、
ろっさんの役割を發揮してまいります

新年明けましておめでとうございます。

さて、私たちが取り巻く状況は、不安定な国際情
勢や、日銀が昨年に行った金利引き上げ、米国の景
気動向の懸念等々で為替も大きく変動しており、金
融情勢においても不安定な状況が続いています。
このような状況下、お金に関する「不安」や「課
題」は尽きないことから、当金庫では「生活応援運
動2024」に取り組んでいます。

具体的には、新入組合員向け講座や、投資信託講
座などをパッケージ化した金融教育の実施に力を入
れ、高金利融資に組合員が手を出さない、他行の高
金利融資からの借換えにて可処分所得を増やす、更
には資産形成のサポートなど運動展開を行っていま
す。

また今年4月からは、第9次中期経営計画が2年
目となり、生活応援運動のさらなる拡大として、今
年は2回目の国際協同組合年であることから、皆様
の生協との連携による利用拡大に向けた協働や、営
業店ごとの推進取組みの成果に対し、NPO団体を
支援する「推しのNPOプロジェクト」に取り組み
ます。金融DXへの挑戦では、「利用される皆様か
らの問い合わせ時間の削減」および「満足度の向上」
を目指し、チャットボットの導入も行います。

これらの取組みを通じ、「助け合いの金融」を実
践し、「誰もが安心して生活できる社会づくり」に貢
献する「金融機関として、今年度も役割を發揮した
いと考えます。

引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます、新
年のご挨拶とさせていただきます。

2024年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

- 開催日時 2024年12月2日 14:00～15:30
- 開催会場 神戸商工貿易センタービル26階 第5会議室
- 出席者 岩山会長理事、末松副会長理事、江見専務理事、若生、中野、小谷、横川、松永、森本、岡田、矢田、清宮（以上、理事）、瀬井、多村、柏原（以上、監事）

議決事項

1. 財務処理規則の改正について

報告事項

1. 分野別生協・団体からの活動報告、告知（各理事・監事より）
2. 2024年度上半期（11月まで）活動報告
3. 2025年度の重点方針・課題（素案）について
4. 2024年度上期監査報告
5. 新春トップセミナー・賀詞交換会の開催案内
6. ひょうごまるごと健康チャレンジ進捗報告
7. その他（県連関連行事、諸活動報告 10/7～12/2）
8. 2024年度下期の主要行事スケジュール



事務所移転に伴い、入居するビル26階の会議室での初開催となりました

保健・医療・福祉研究会《拡大版》

12月4日に保健・医療・福祉研究会メンバーや会員生協職員など13人で「認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 地域共生拠点・あすパーク」を訪問しました。事務局長 飛田敦子氏から、あすパークでの活動内容や進め方についてお話を伺い、組合員活動について考える機会としました。

地域住民が自立して活動を担い、継続できるように、「グループ化」や「支援スキーム」を用いていることなどを学び、参加者は、自生協で参考にするために積極的に質問をして理解を深めました。



事務局長 飛田敦子氏



地域共生拠点・あすパーク

参加者の感想 (抜粋)

- 「こんなことやってみたい」が沢山あるにもかかわらず、実際には何も動けていない。今日のお話を聞いてしっかりと地域調査をしていることに驚き、とても参考になりました。「スキーム」を参考にできればと思う。
- 住民参画型の地域づくり、住民主体の社会貢献へのアプローチ、そのために必要なエッセンスがギュッと濃縮した学びの時間だった。



事務局の皆さんのエネルギーに活力をいただく訪問となりました

JF

JF 兵庫漁連

淡路水交会 「漁業者による森づくり活動」開催 ～ウバメガシ600本を植樹～

11月12日（火）、一般社団法人淡路水交会（片山 守会長）が主催する「漁業者による森づくり活動」が南あわじ市福良 長見山浄水場付近の山林で行われ、ウバメガシの苗木600本を植樹しました。

この活動は、淡路周辺地域で行ってきた水産資源の増大を目的とした柴漬けによるアオリイカ産卵床造成等の活動と森づくり活動（植樹活動）をリンクさせたもので、植樹で生じた除・間伐材を柴漬けに活用する等、豊かな海づくり（海の再生）と植樹（森づくり）の連携により環境の保全及び地域貢献を目的としており、今年で16回目となります。

当日は島内 JF 役職員、漁青連のほか、行政や系統団体、さらに南あわじ市立福良小学校 4年生児童25人を加えた121名が参加しました。同会 片山会長、福良小学校校長先生の挨拶の後、参加者らは、苗木と土嚢に入った土を次々に運び込み、植樹していきました。児童らには、造園業者から植樹方法の説明を受けた後作業に取り掛かり、約1時間後にはすべての苗木が植えられました。

作業後、県洲本農林水産振興事務所 山口 瑞紀氏から水産教室が開かれ、海の大切さ、森・川・海の関係、兵庫県を目指す「豊かな海」について学習しました。説明の途中で出題されたクイズでは沢山の手が挙がり、回答した児童らにはお魚シールが配られ、楽しみながら兵庫の海について学ぶことが出来ました。



片山会長挨拶の様子



植樹活動の様子



水産教室の様子

JA

JA 丹波ひかみ

最先端技術による栽培管理で イチゴ収穫量の安定化を図る

丹波市の河手大輔さんは、東京の光学機器メーカーでプリンターの開発に携わっていました。報道で農業従事者の高齢化や担い手不足などの現状を知り、長年の研究で馴染みのある IT を活用して農業を活性化させたいという思いから、農家への転職を決意しました。

JA 丹波ひかみの子会社である株式会社アグリサポートたんばでの2年間の研修を経て、3年前に独立しました。現在、3棟連のハウスで複数の品種のイチゴを栽培し、安定した収穫量の確保を目指しています。

河手さんのハウスでは、光合成を促進するため、朝方に自動で二酸化炭素を供給するシステムを導入しています。また、天井に等間隔でLEDランプを設置し、日照時間が短い冬に休眠しないよう工夫しており、イチゴの草勢を維持しています。

他にもハウス内の環境を自動で調整する設備として、最先端の培地加温装置を導入しています。丹波市では2月と3月の平均気温が低く、実が大きく成長しにくいいため、各プラントのチューブにお湯を通して土を温め、イチゴの栽培に適した13度以上に土温を保っています。これにより、12月から5月までの収穫期間の収穫量が安定し、高品質なイチゴの栽培が可能となっています。JA 丹波ひかみ営農経済部営農振興課山本優治さんは「徹底した管理と最先端技術を活用して栽培されたイチゴは、甘く形が良いと直売所で人気を集めています」と話します。







河手さんは、今後も最先端技術を活用しながら高品質なイチゴを安定して収穫できるよう取り組みます。





令和6年度消費生活講座
くらしのトラブルへの備えは大丈夫?



<p>1 10(金) 14:00~15:30</p> <p>見逃し配信 1/10(金) 17時~ 1/13(月) 24時</p>	 あまちゃ工房代表 天野 勢津子 氏	<p>~災害への備え~ あれから30年、備えは大丈夫? 阪神・淡路大震災から30年。自然災害から身を守るため、もしもの時に役立つ防災の知識や知恵を学びましょう。</p> <p>イラストレーター、防災士。著書「イラスト・図解でまるっとわかる!家族でそなえる防災・被災ハンドブック」(イーストプレス)ほか。</p>	 申込サイト
<p>1 31(金) 14:00~15:30</p> <p>見逃し配信 1/31(金) 17時~ 2/3(月) 24時</p>	 中央大学文学部教授 有賀 敦紀 氏	<p>~だまし広告・勧誘への備え~ だまされないための心理学 だまされないと思っている人がだまされる!? だまされる心理としくみを知って、だまされない消費者になるために学びましょう。</p> <p>中央大学文学部教授。専門は認知心理学、消費者心理学。認知心理学の視点から消費者被害の分析を行い、それに基づいた消費者教育も行っている。</p>	 申込サイト
<p>2 6(木) 14:00~15:30</p> <p>見逃し配信 2/6(木) 17時~ 2/9(日) 24時</p>	 弁護士 上田 孝治 氏	<p>~住まいのトラブルへの備え~ 住まいの問題を専門家が解き明かす 賃貸住宅、マンション管理、空き家問題まで様々な住まいのトラブルの解決法について、法律の専門家から学びましょう。</p> <p>弁護士。不動産取引やマンション管理に関する紛争の予防や解決に取り組み、兵庫県弁護士会の住宅紛争審査会の紛争処理委員などを務める。</p>	 申込サイト

対 象 兵庫県在住・在勤・在学の方

申込方法 **会場参加** (兵庫県立消費生活総合センターへの来所) **先着30名** ←当日のみ
 電話でお申し込みください。→ ☎ 078-302-4001 (平日10時~17時)

参加無料 **オンライン参加** (Zoomウェビナーでの視聴) **先着200名** ←見逃し配信をご視聴希望の方もお申し込みが必要

① 申込サイトからお申し込みください。(見逃し配信期間中はお申込みいただけます)
 上記二次元コードを読みこんでいただくと**申込サイト**につながります。

② Zoomウェビナー招待メールが届きます。当日、参加リンク部分をクリックしてご参加ください。
 ・申込後、数時間たっても招待メールが届かない場合は、下記までお電話でお問い合わせください。
 ・いただきました個人情報は、当講座の運営管理にのみ使用いたします。

(お問合せ)
 〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-2(ポートライナー中公園駅下車 徒歩2分)
兵庫県立消費生活総合センター 消費生活情報プラザ TEL: 078-302-4001(平日10時~17時)

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓



みなさま、あけましておめでとうございます。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江直記です。本年もどうぞよろしくお願いたします。

2025年という数字を見ると、ずいぶん未来にきたものだなと感じてしまいます。今年も皆様と健康で楽しく過ごせることを祈っています。

さて「オンラインカジノ」の世界にのめりこんでしまい、依存症になってしまう人が増えているというお話の続きをしていこうと思います。スマホで手軽にできてしまうオンラインカジノは依存症に陥りやすいのです。そもそも、パカラ、スロット、スポーツベッティング等、その名称や内容にかかわらず、オンライン上で行われる賭博は犯罪となります。海外では合法で海外のサイトだから安全ということではなく、日本からアクセスしてお金をかけたりすれば、賭博となります。日本では2018年10月にギャンブル等依存症対策基本法が施行されました。この法律によって国はギャンブル依存症対策を総合的に策定し実施する責務を負うこととなっています。実際、依存症かもと思うことがあれば、もしくは、身近な人が依存症になってしまっていたら、どうしたらよいでしょう。ひとつは、医療機関に相談してみることです。兵庫県にも「依存症専門医療機関」というのがあります。また、相談窓口もいくつかあります。こちらも兵庫県のホームページに案内があります。依存症に関して、このような相談機関があることもぜひ知っておいてほしいのです。

ひょうご消費者ネット
連絡先 〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
 TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com

MOVE

2024年度兵庫県生協連 「初級経理学校」のご案内

1. 日 時 2025年3月6日(木) 13:30~16:30
2. 実施方法 オンライン (Zoom)
3. 内 容 決算関係書類の見方を理解し、経営分析の手法について学びます。ケーススタディでは決算関係書類の事例や自生協・会社の数値をもとに実際に各種経営指標を算定し、経営状況を分析する演習を行います。

経営分析の基礎

- ①決算関係書類の見方
- ②経営分析の目的と考え方
- ③収益力の分析
- ④安全性の分析
- ⑤生産性の分析
- ⑥ケーススタディ



4. 対 象 会員生協・団体の役職員
5. 講 師 日本生活協同組合連合会 管理本部 経理部
決算・経営企画G 湯浅 慶星氏
6. 定 員 30人
7. 受講料 無料
8. 申込締め切り 2月10日(月)

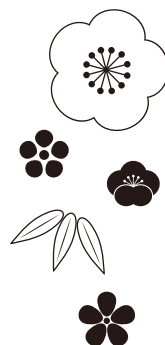
申し込み・問い合わせ ☎ 兵庫県生活協同組合連合会 TEL **078-894-3207**



兵庫県生協連の事務所から海を臨んで

新年あけましておめでとうございます。毎年恒例の「今年の抱負」に原稿をお寄せいただきました会員生協・団体の関係者皆さま、誠にありがとうございました。12月7日に行った兵庫県生協連の引越しがやっと落ち着いてきました。年末の慌ただしさも加味して、怒涛の日々でしたが、新事務所で気持ちも新たに日々業務に励んでいます。2025年は2回目の国際協同組合年、阪神淡路大震災30年、戦後80年と節目の多い年です。協同組合がどんなことをしていけるのか、皆さんと一緒に考え、取り組める年になってきたらと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

編集後記



- 1月11日 新春トップセミナー・賀詞交換会
- 1月21日 税務・経理講習会
- 1月23日 第5回生協活動委員会
- 1月27日 監事と代表理事懇談会

県連行事予定